

・ルーチンの AIREPS は、現業通信回線によって受け取る。

・特別観測資料は、郵送によって受け取る。

時間：非定時

(v) USA の静止衛星 ATS-I と ATS-II の雲の航跡による風の資料

・3指定面 (1000mb, 850mb, 200mb) については、郵送によって受け取る。

観測範囲：赤道上のほぼ 150°W と 50°W とを中心とした半径 500km の円内。

時間：非定時

(vi) SIRS 垂直温度分布資料 (南半球の海洋域のみ)

・郵送によって受け取る。

時間：非定時

(b) 解析

(i) 等圧線, 等温線, 前線, 収束帯を示す地上天気図

時間：00, 12 GMT

(ii) 南北両半球の 20°~90° に対しては、等高線と等温線を熱帯の 30°S~30°N に対しては、流線と等風速線を示す高層天気図

指定面：1000, 850, 500, 250mb

時間高層解析資料は、南北両半球では WMC のワシントンで使っている八角形格子 (格子の大きさ, 60° で 381km) を用いた格子点の値として、熱帯では緯度, 経度の平行な格子 (格子の大きさ, 3°×3°) を用いた格子点の値として示される。

5. 資料の入手法

基礎資料群に含まれる全資料は、現在 WMC のワシントンで編集されている標準 7トラック, 1/2インチ磁気テープに入れられる予定である。WMC のワシントン, メルボルンは、またおそらくはモスクワも、基礎資料群の担当国として世話をし、この資料に興味を持っている利用者からの請求に対しては、技術使用料と請求資料の送料等の原価料金で提供する。

資料が得られた正確な位置とともに、その利用できる全資料の種類, 分布, 様式についての詳しい情報を含む、GARP の基礎資料群計画での総合報告は、この全計画が終りに近づいたところ、おそらく1971年の後半の間に出されるだろう。そして、これは、GARP Publication Series にのせられ、各国の気象機関と同様に、国際的な科学委員会に配布する予定である。

(気象庁高層課 本母利広訳)

月例会のお知らせ

主 題：高層気象

日 時：昭和46年10月29日 (金) 9.30~12.00

会 場：第2会議室

1. 清水正義(高層課)：大気オゾンの湿潤光化学反応と輸送過程について
2. 中島正一(高層課)：館野におけるオゾンゾンデ観測結果の低層部分について(第2報)
3. 折口忠夫(福岡管区)：ラジオゾンデの気温ペンフ

レ防止について

4. 吉田宗徳(高層気象台)：気球の破裂高度について
5. 浦江 栄(仙台管区)：ターゲット用コーナレフレクターアンテナの試作について
6. 迎 正秋(高層課)：気象要覧用偏差図の客観的解析について
7. 五月女敬太郎(高層課)：指定気圧面の風の内挿方法について